

東温市 地方創生拠点整備交付金事業 PDCA効果検証シート

(平成29年度繰越明許予算事業・平成29年度当初予算事業)

1. どんな計画か？(Plan)

No.	交付金対象事業の全体事業名	事業開始	事業終期	全体事業費				
4	◆アート・ヴィレッジ「とうおん」創生拠点施設整備事業	平成29年3月	平成30年3月	85,596,960円				
事業全体の概要								
<p>本市は、文化芸術による地域振興施策「アートヴィレッジとうおん構想」を平成28年度に開始し、地方創生推進交付金(H28年度～H30年度計画)を活用し、文化芸術関連の各種サービス事業の企画・開発・試行に取り組んでいる。</p> <p>本事業では、今後、同構想を推進していくうえでの中核施設として、坊っちゃん劇場に隣接する商業施設「クールス・モール」の一部(約300坪)を市が借り受け、「アート・ヴィレッジ『とうおん』創生拠点施設」(現:東温アートヴィレッジセンター)として整備する。</p> <p>整備後は、東温市移住定住促進協議会を中心とする運営組織を指定管理者として指定し、当該運営組織が施設維持管理、利用者管理、文化芸術関連の企画事業を一元的に実施することにより舞台芸術の聖地化を図り、アーティストの移住促進や市の認知度向上、交流人口の拡大など、市全体に効果を波及させていくことを目指す。</p>								
交付金事業として採択されたポイント								
①自立性		②官民協働		③政策間連携		④事業推進主体の形成	⑤地方創生人材の育成・確保	
移住定住促進協議会を中心とした運営組織を立上げ、3～5年以内に自立を目指す。		市、移住定住促進協議会、坊っちゃん劇場が協働して事業を実施する。		総合戦略施策(市内施設の観光・交流拠点化、新規産業支援、地域情報の発信など)		東温市移住促進協議会内に「アートヴィレッジ推進部会」を形成する。	劇場施設の運営経験や音響・照明などの専門的スキルを持つ人材を地域おこし協力地として誘致、育成。	
事業を構成する個別事業名				事業費	対象経費	財源内訳		
						拠点整備交付金	地方債	一般財源
1	アート・ヴィレッジ「とうおん」創生拠点施設整備事業(平成29年度繰越明許予算)			82,032,960円	76,184,000円	38,092,000円	38,000,000円	5,940,960円
2	アート・ヴィレッジ「とうおん」創生拠点施設整備事業(平成29年度当初予算)			3,564,000円	0円	0円	0円	3,564,000円
							0円	0円
合 計				85,596,960円	76,184,000円	38,092,000円	38,000,000円	9,504,960円

2. どのように実行したか(Do)

施設整備計画と工事実績

◆アート・ヴィレッジ「とうおん」創生拠点施設整備事業(平成29年度繰越明許予算)

- 1 アート・ヴィレッジとうおん創生拠点施設整備工事設計監理業務(決算額:5,886,000円)
 - (1) アート・ヴィレッジとうおん創生拠点施設整備工事設計業務(4,752,000円)

受託者 新企画設計株式会社
履行期間 平成29年6月2日～平成29年8月31日(変更後:平成29年6月2日～平成29年11月30日)
 - (2) アート・ヴィレッジとうおん創生拠点施設整備工事施工監理業務(1,134,000円)

受託者 新企画設計株式会社
履行期間 平成29年11月16日～平成30年3月31日
- 2 アートヴィレッジとうおん創生拠点施設整備工事(決算額:71,813,240円)
 - (1) アートヴィレッジとうおん創生拠点施設整備工事(70,298,000円)

請負者 株式会社 岡崎工務店
履行期間 平成29年11月21日～平成30年3月25日
 - (2) アートヴィレッジセンター小劇場舞台床組工事(1,299,240円)

請負者 株式会社 岡崎工務店
履行期間 平成30年3月2日～平成30年3月25日
 - (3) アートヴィレッジセンター交流サロン電気工事(216,000円)

請負者 株式会社 岡崎工務店
履行期間 平成30年3月22日～平成30年3月25日
- 3 東温アートヴィレッジセンター施設用備品の購入(決算額:4,275,720円)
 - (1) アートヴィレッジセンター音響備品の購入(3,996,000円)
 - (2) アートヴィレッジセンター演出補助備品(リノリウム)の購入(279,720円)
- 4 指定管理者の選定(決算額:8,000円)

東温アートヴィレッジセンター指定管理者選定委員謝礼(8,000円※審査委員1名分)

⇒指定管理者として、東温市移住定住促進協議会及び株式会社ジョイ・アートによる共同事業体が選定され、平成30年4月1日の開館日から運営管理業務を開始した。
- 5 建築確認(用途変更)申請(決算額:50,000円)

アートヴィレッジとうおん創生拠点施設整備工事に係る建築確認(用途変更)申請手数料(県証紙購入代)

◆アート・ヴィレッジ「とうおん」創生拠点施設整備事業(平成29年度当初予算)

- 1 東温アートヴィレッジセンター照明備品の購入(決算額:3,564,000円)

受託者: 株式会社 四国舞台テレビ照明 松山事務所
納入期限: 平成30年3月24日
納入品: ・DMXコントローラー CS40 ×1台
・LEDパライト用ランプ CORVO 2ㄥ×20台 など

3. 効果はどうであったか？(Check)

重要業績評価指標 (KPI)①	事業開始前	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	増加の累計
アート・ヴィレッジ「とうおん」 創生拠点施設における演劇 関連サービスの売上額	0 千円	0 千円	5,000 千円	55,800 千円	62,500 千円	70,000 千円	193,300 千円
		0 千円	0 千円	6,632 千円	千円	千円	6,632 千円
		0.0 %	0.0 %	11.9 %	0.0 %	0.0 %	3.4 %
重要業績評価指標 (KPI)②	事業開始前	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	増加の累計
演劇関連産業への従事や 演劇技術の修得、研鑽等を 目的とした移住者数(家族を 含む)	12 人	3 人	20 人	20 人	30 人	30 人	103 人
		3 人	10 人	2 人	人	人	15 人
		100.0 %	50.0 %	10.0 %	0.0 %	0.0 %	14.6 %
重要業績評価指標 (KPI)③	事業開始前	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	増加の累計
坊っちゃん劇場観劇者数 (現状値:過去3年間の平均 値)	72,919 人	1,000 人	2,000 人	3,000 人	3,500 人	3,500 人	13,000 人
		8,864 人	7,303 人	3,548 人	人	人	19,715 人
		886.4 %	365.2 %	118.3 %	0.0 %	0.0 %	151.7 %

①事業成果に対する分析

【成果の上がった点及びその原因】

KPI②(移住者数)については、H29年度は構想立ち上げに伴い多くの舞台関係者が移住したものの、H30年度は東温アートヴィレッジセンターが開館し、様々な取組を進めているものの、まだ多くの移住者を賄うほどの収益事業化には至っていない。KPI③(坊っちゃん劇場観劇者数)は、本事業による周知PR事業等の効果が波及していることが確認できる。東温アートヴィレッジセンターの開館初年度となる平成30年度の利用者数は10,627人となっており、利用者は着実に増加傾向にある。

【成果の上がらなかった点及びその原因】

KPI①(拠点施設売上額)については、平成30年4月の開館後は指定管理者の体制も整い、貸館事業、自主企画事業(公演等)とも売上げを伸ばしているが、収益事業の核として準備を進める8Kシアター事業については、運営を予定する民間企業において高額な追加投資が必要になることがネックとなり、進捗が遅れている。

②委員のご意見

- ・各KPIの指標の妥当性は今一つ不明確であり、KPI指標を見直す余地があると考える。
- ・各事業に熱心に取り組まれているので、今後の事業展開にも成果を活かしてもらいたい。

③事業評価及び今後の方針

事業評価	地方創生に 非常に効果があった	地方創生に 効果があった	地方創生に 一部効果がみられた	地方創生に 効果がなかった
今後の方針	1年度限りのハード整備事業である。 整備後は指定管理者による運営管理に移行する。			

4. 改善点、改善策は？(Action)

分析結果及び委員のご意見を踏まえた施策改善案

【成果の上がった点に関する方針及び具体策】

・開館後1年が経過し、一定数のリピーター獲得には成功しているが、まだまだ利用者の絶対数が少ないため、施設の更なる周知を図るとともに、利用予約方法や料金制度の丁寧な説明など接客面の向上や、施設面での改善も継続的に実施していく。

・本施設は全国から人が集まる独自性を打ち出す必要がある一方で、近隣市町在住者の利用促進も重要であるため、施設特性を活かして身近なプログラムも提供していく。

【成果の上がらなかった点に関する方針及び改善策】

・売上向上策として、坊っちゃん劇場役者による独自企画、地域おこし協力隊のネットワークを生かした地域運動企画、利楽との運動企画、道後温泉との運動企画などを実施する。

・収入源として見込んでいる8Kシアター事業について、事業実施企業等と協議を進め、早期開設に向けた具体的な計画を立てる。

【事業全体としての改善点】

・公演、イベントに関しては、これまでの結果分析をもとに、真に顧客メリットがあり、参加料の見込める企画を絞り込んで実施していく。

・現実的な売上目標を再設定し、毎年度確実に達成しながら、事業を拡大していく。